

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成28年7月～9月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成28年10月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 28 年 7 月～9 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、くろかわ、加美、遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 145 企業

2. 調査対象期間

平成 28 年 7 月～9 月期を対象として、調査時点は平成 28 年 9 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 1
建 設 業	2 5
小 売 業	4 4
サービス業	4 5
合 計	1 4 5

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成28年7月～9月期)の調査において、産業全体の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より△4.4ポイントの悪化で△29.4(前期△25.0)となった。産業別にみると、製造業は△29.0(前期△6.7)と△22.3ポイント悪化、建設業が△12.5(前期4.0)と△16.5ポイント悪化、小売業では△48.8(前期△51.2)と2.4ポイント改善、サービス業では△20.0(前期△29.6)と9.6ポイント改善した。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iでは、全体として今期は前期(H28年4月～6月期)に比べて改善した。産業別にみると、製造業は△3.2(前期△9.4)で6.2ポイント改善、建設業は△20.0(前期△32.0)で12.0ポイント改善、小売業で△50.0(前期△42.9)と△7.1ポイント悪化、サービス業で△27.3(前期△36.4)と9.1ポイント改善した。

② 採算の状況

採算D Iについては、全体として今期は前期に比べて若干悪化した。産業別にみると製造業で△20.0(前期△6.4)と△13.6ポイント悪化、建設業で△20.0(前期△12.0)で△8.0ポイント悪化、小売業でも△47.7(前期△45.2)で△2.5ポイント悪化、サービス業では△24.5(前期△38.7)と14.2ポイント改善した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では22.6%で前期比3.2ポイント増加、建設業では8.0%で前期比△0.3ポイント減少、小売業では11.9%と前期比4.2ポイント増加、サービス業では14.0%で前期比△2.3ポイント減少した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

H28年9月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（DI）は前期（6月調査）と比較して製造業が2ポイント改善のマイナス3、非製造業は1ポイント改善のプラス1だった。先行きはいずれも悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）DIは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では製造業、建設業、サービス業で改善したが、小売業で悪化となった。

今期の宮城の全国、東北との売上額DI比較では、製造業で全国・東北以上、建設業で全国・東北以下、小売業、サービス業で全国以下、東北以上であった。

表-1 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・DI)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 16.8	△ 20.5	△ 18.3	△ 22.0	△ 9.4	△ 3.2
建 設 業	△ 18.2	△ 15.9	△ 26.8	△ 18.9	△ 32.0	△ 20.0
小 売 業	△ 38.1	△ 39.2	△ 39.6	△ 51.6	△ 42.9	△ 50.0
サービス業	△ 22.3	△ 22.6	△ 20.4	△ 29.7	△ 36.4	△ 27.3

② 採 算

宮城の今期の採算DIは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、サービス業で改善したが、製造業、建設業、小売業で悪化した。今期の宮城の全国、東北との採算DI比較では、宮城は製造業では全国・東北以上で、建設業、小売業では全国・東北以下、サービス業では全国以下、東北以上であった。

表-2 採算の状況 (前年同期比・DI)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 18.8	△ 21.9	△ 21.3	△ 24.1	△ 6.4	△ 20.0
建 設 業	△ 16.5	△ 17.4	△ 17.5	△ 15.2	△ 12.0	△ 20.0
小 売 業	△ 34.2	△ 34.0	△ 35.9	△ 41.1	△ 45.2	△ 47.7
サービス業	△ 25.0	△ 23.9	△ 26.6	△ 28.3	△ 38.7	△ 24.5

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（28年10月～12月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で△3.3ポイント悪化、建設業で△21.7ポイント悪化、小売業で5.8ポイント改善、サービス業で0.1ポイントの若干の改善の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で△2.5ポイントの悪化、建設業で7.5ポイントの改善、小売業で4.5ポイントの改善、サービス業で△2.8ポイントの悪化見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では、売上・採算共に全国の改善見通しに対し宮城は悪化方向の見通しとなった。建設業では、売上は全国、宮城共に悪化の見通し、採算では全国で悪化、宮城で改善の見通しとなった。小売業では、売上・採算共に全国でも宮城でも改善見通しとなった。サービス業では、全国が売上・採算ともに改善の見通しに対し宮城は売上が若干の改善、採算では悪化の見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 20.5	△ 14.1	△ 3.2	△ 6.5
建設業	△ 15.9	△ 21.5	△ 20.0	△ 41.7
小売業	△ 39.2	△ 35.3	△ 50.0	△ 44.2
サービス業	△ 22.6	△ 21.2	△ 27.3	△ 27.2

表－4 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 21.9	△ 17.3	△ 20.0	△ 22.5
建設業	△ 17.4	△ 20.0	△ 20.0	△ 12.5
小売業	△ 34.0	△ 30.8	△ 47.7	△ 43.2
サービス業	△ 23.9	△ 22.9	△ 24.5	△ 27.3

2. 県下産業別の景況

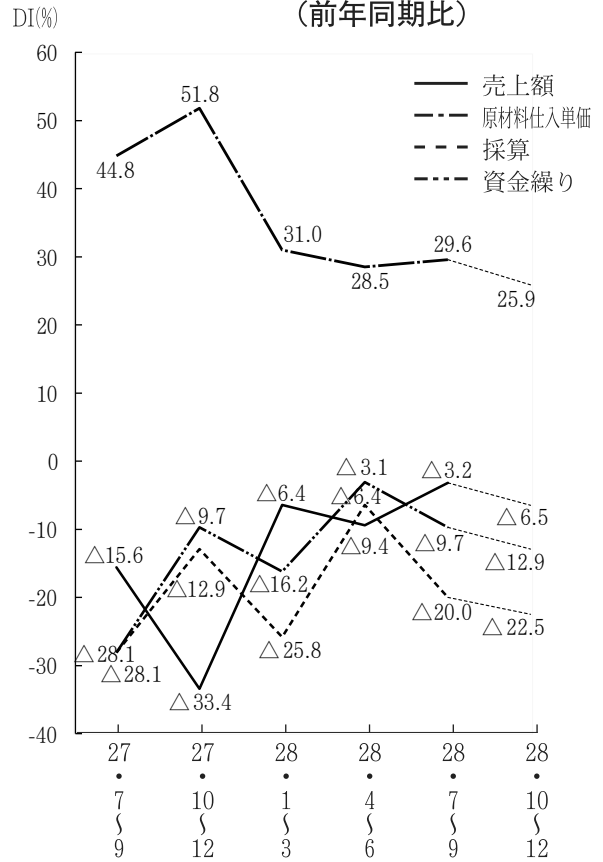
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期 $\Delta 3.2$ （前期 $\Delta 9.4$ ）となり6.2ポイント前期より改善したが、採算D Iは今期 $\Delta 20.0$ （前期 $\Delta 6.4$ ）で $\Delta 13.6$ ポイントの悪化、資金繰りD Iも今期 $\Delta 9.7$ （前期 $\Delta 3.1$ ）で $\Delta 6.6$ ポイントの悪化となった。

原材料仕入単価は今期29.6（前期28.5）と1.1ポイントの上昇となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



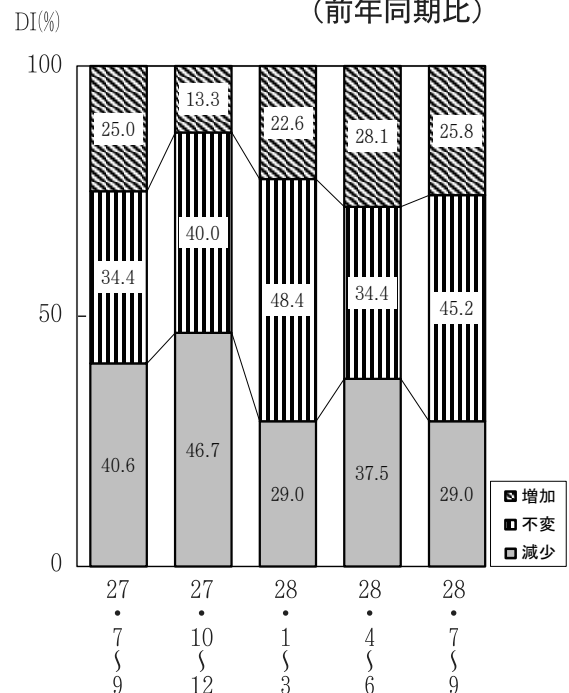
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の25.8%（前期28.1%）と $\Delta 2.3$ ポイント減少し、「減少」と回答した企業も29.0%（前期37.5%）と $\Delta 8.5$ ポイント減少した。

結果として売上（加工）額D Iは $\Delta 3.2$ （前期 $\Delta 9.4$ ）となり前期比6.2ポイント改善した。

図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)

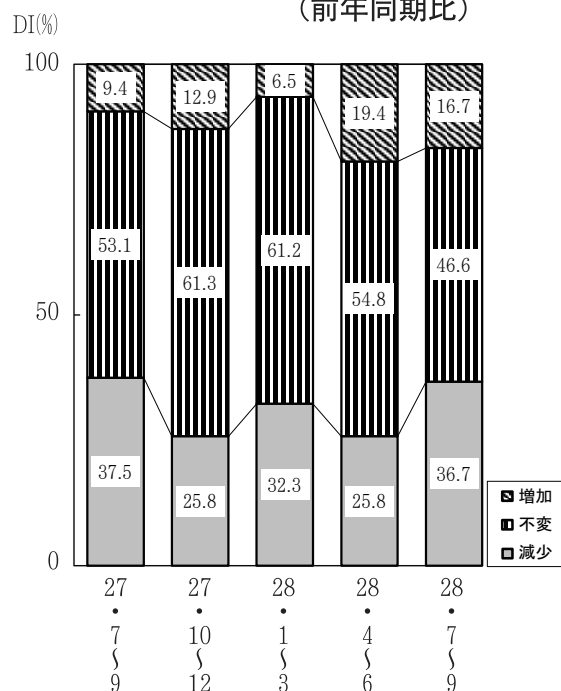


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の16.7%（前期19.4%）で△2.7ポイント減少し、「悪化」と回答した企業は36.7%（前期25.8%）で10.9ポイント増加した。

その結果、採算DIは△20.0（前期△6.4）で前期比△13.6ポイント悪化した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



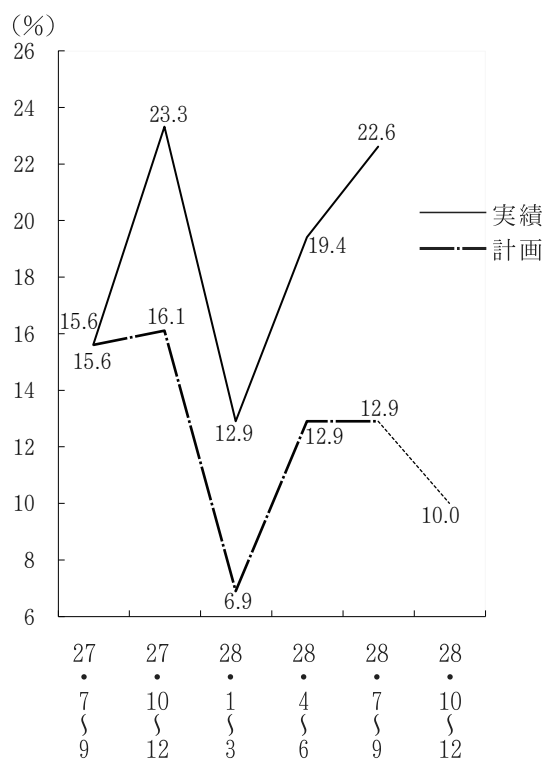
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、全体の22.6%（前期19.4%）で前期と比べ3.2ポイント増加した。

その設備内容は、生産設備、車両・運搬具、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の10.0%で、その設備内容は生産設備、OA機器となっている。

図1-4 設備投資の状況

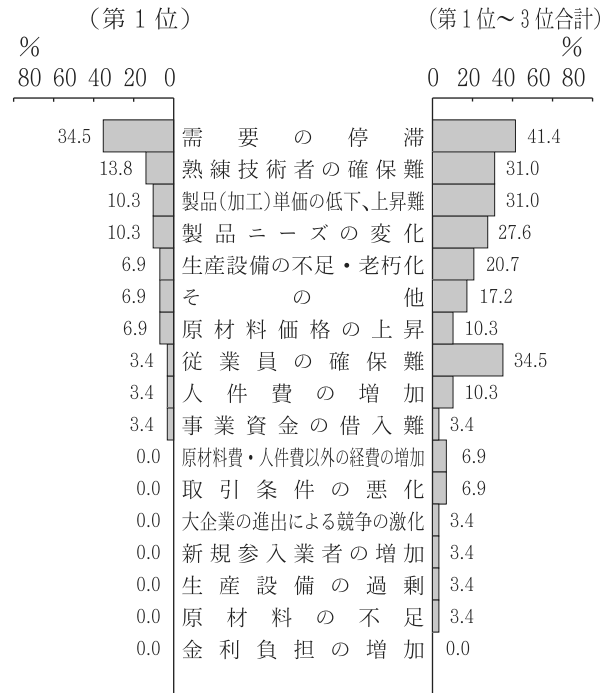


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」の34.5%で、次いで「熟練技術者の確保難」が13.8%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」、「製品ニーズの変化」が同率10.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が41.4%（複数回答計、以下同じ）で最上位、「従業員確保難」が34.5%、「熟練技術者の確保難」、「製品（加工）単価の低下、上昇難」が31.0%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



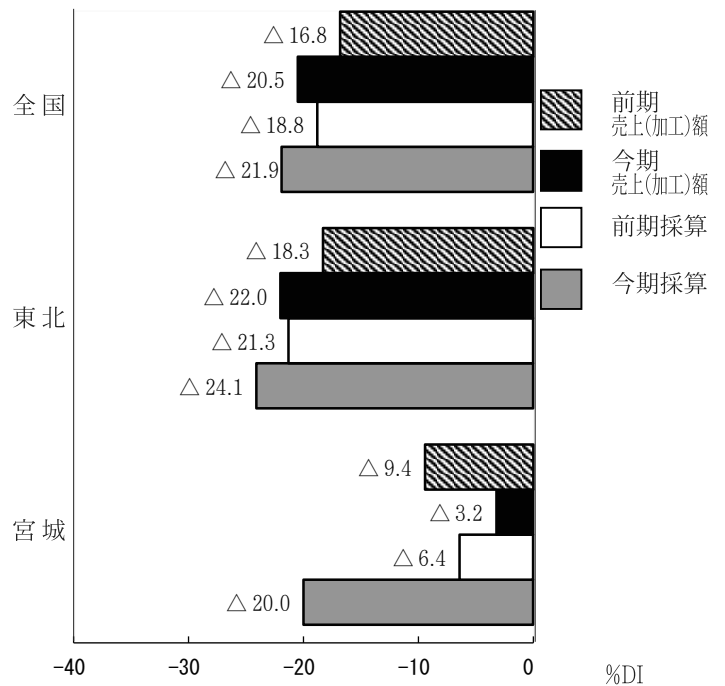
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上（加工）額DIでは全国、東北で悪化、宮城で改善となった。その悪化度は全国、東北で同じであった。

採算DIの比較では、全区分で悪化した。その悪化度は宮城、全国、東北の順であった。

本県回答事業者からは「引き合いがまだまだ弱く需要が停滞気味」（金属加工業）や、「特殊技術を生かしてオンリーワンを目指す」（縫製業）などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



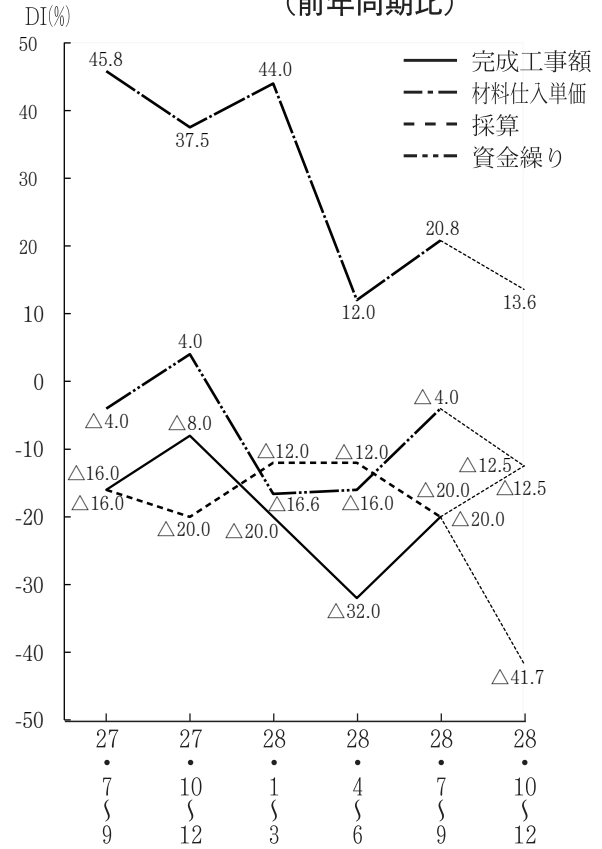
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△20.0（前期△32.0）と前期より12.0ポイント改善、採算D Iは今期△20.0（前期△12.0）で△8.0ポイント悪化、資金繰りD Iは今期△4.0（前期△16.0）と12.0ポイント改善した。

材料仕入単価D Iは今期20.8（前期12.0）と前期より8.8ポイント上昇した。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



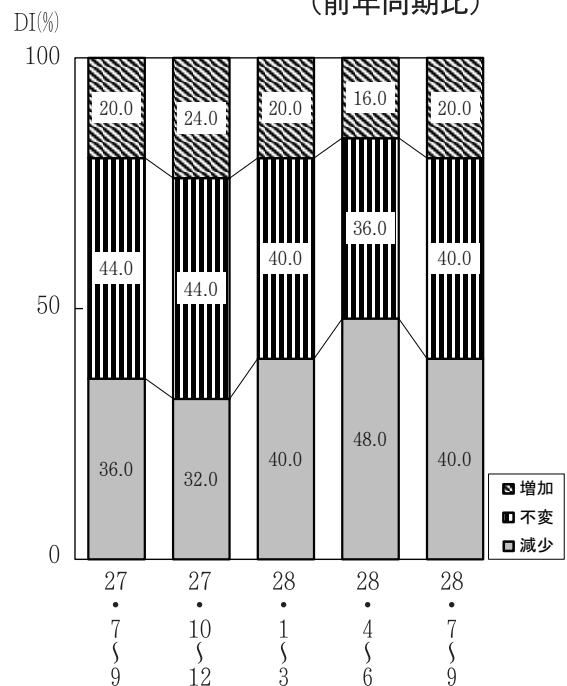
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の20.0%（前期16.0%）で4.0ポイント増加、「減少」と回答した企業は40.0%（前期48.0%）と△8.0ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△20.0（前期△32.0）と12.0ポイント前期より改善した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

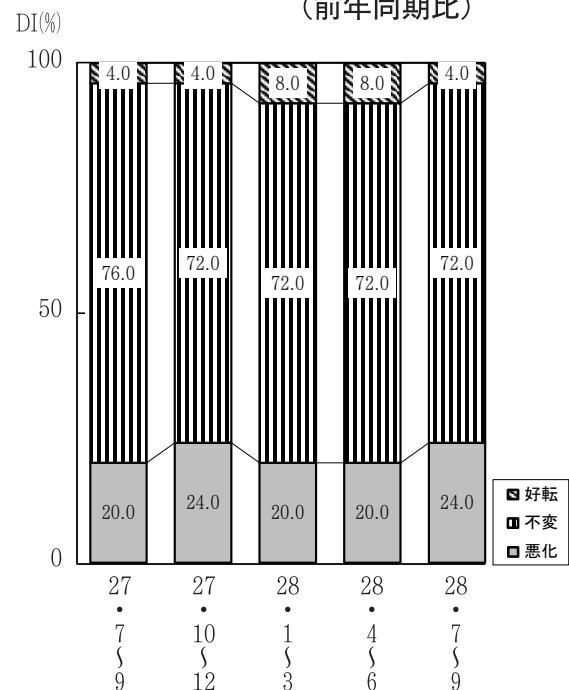


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 4.0% (前期 8.0%) で△4.0 ポイント減少、「悪化」と回答した企業は全体の 24.0% (前期 20.0%) で 4.0 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△20.0 (前期△12.0) と△8.0 ポイント悪化した。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



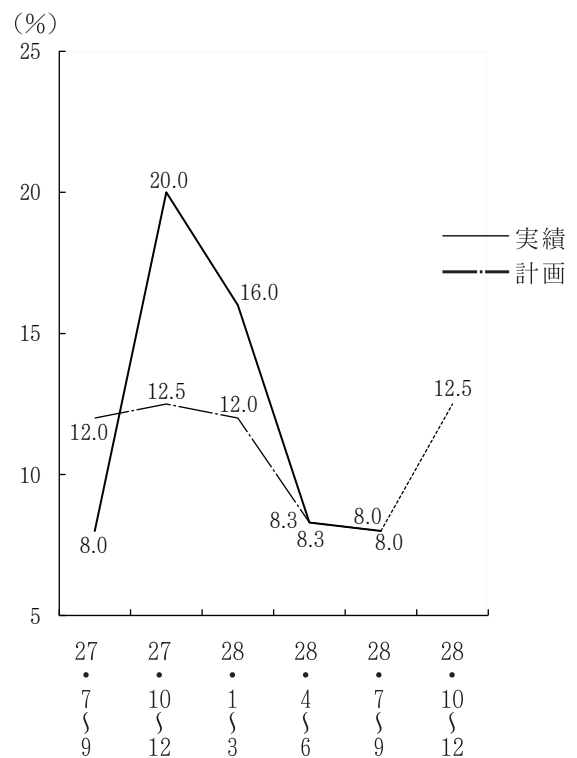
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は、全体の 8.0% (前期 8.3%) で前期より△0.3 ポイント減少した。

その設備内容は車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 12.5% で、その設備内容は土地、車両・運搬具、付帯施設となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

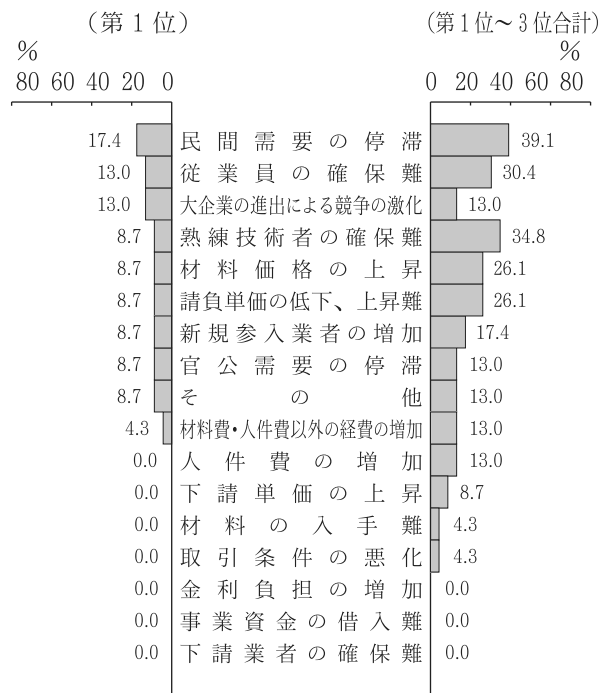


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「民間需要の停滞」の17.4%で、次いで「従業員の確保難」、「大企業の進出による競争の激化」が同率13.0%であった。

重要度第1位から第3位合計でも、最上位が「民間需要の停滞」で39.1%(複数回答計、以下同じ)、次いで「熟練技術者の確保難」が34.8%、「従業員の確保難」が30.4%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

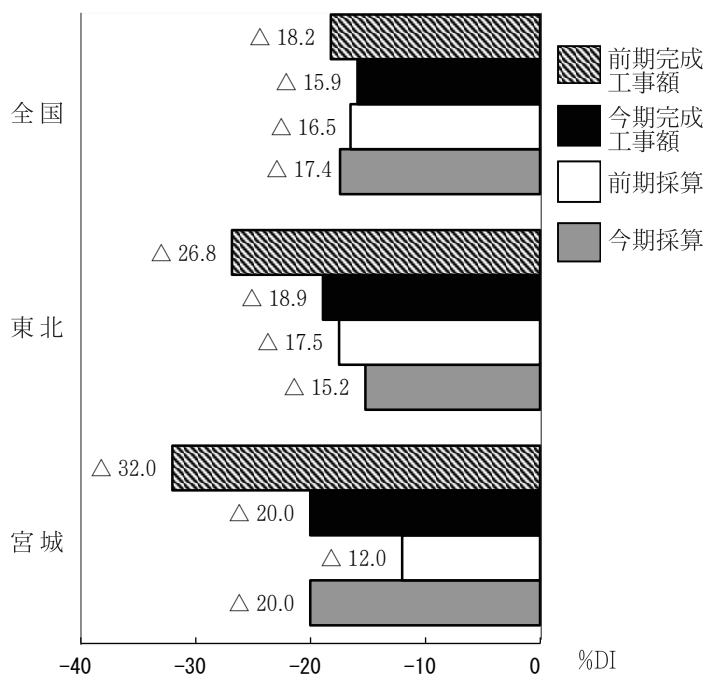
今期と前期との比較では、売上額D Iは全国、東北、宮城で改善した。

その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算D Iの比較では、全国で若干の悪化、東北で改善、宮城で悪化となった。

本県回答事業所からは「民間需要が停滞し、同業社間の競争が激しく請負単価の低下へ」や、「消費税の先送りで、駆け込み需要が先送り傾向」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較(前年同期比)



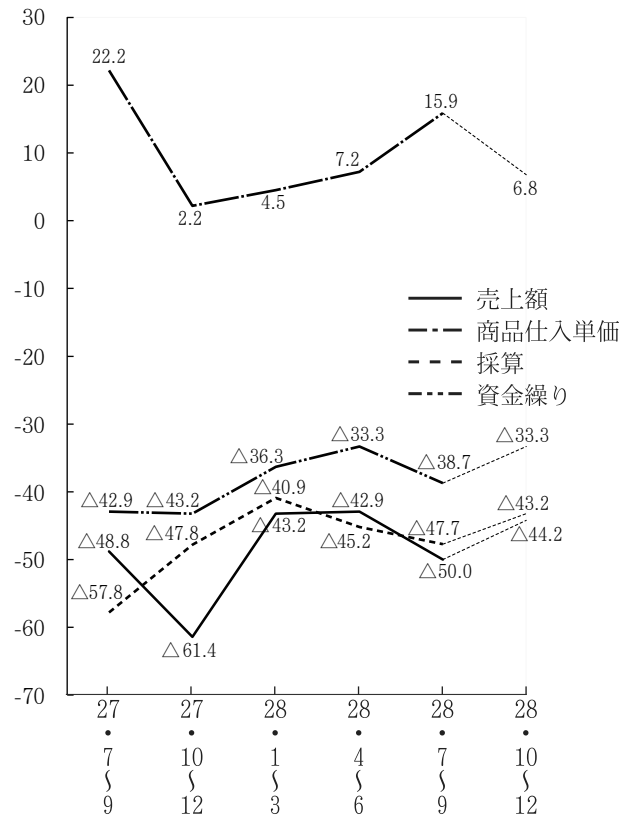
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△50.0（前期△42.9）と前期に比べ△7.1ポイントの悪化、採算D Iも今期△47.7（前期△45.2）で△2.5ポイント悪化、資金繰りD Iも今期△38.7（前期△33.3）で△5.4ポイント悪化した。

商品仕入単価D Iは今期 15.9（前期 7.2）となり 8.7ポイント上昇した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



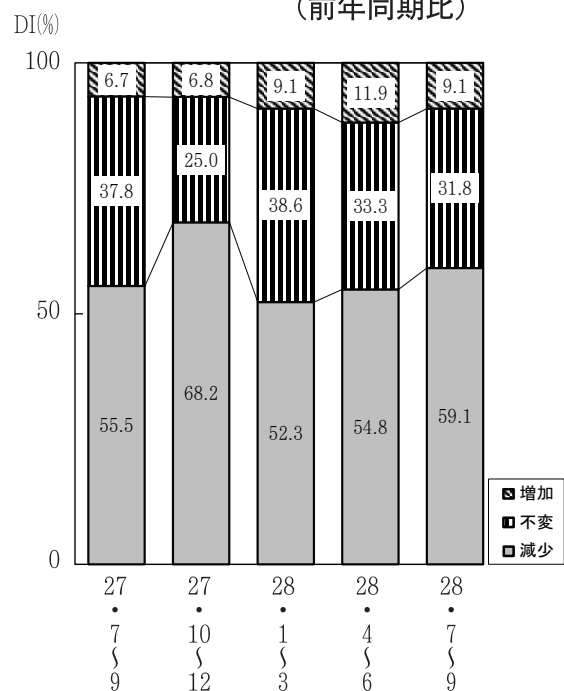
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の9.1%（前期11.9%）と△2.8ポイント減少、「減少」の回答は、今期は全体の59.1%（前期54.8%）で4.3ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは今期△50.0（前期△42.9）と△7.1ポイント前期より悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

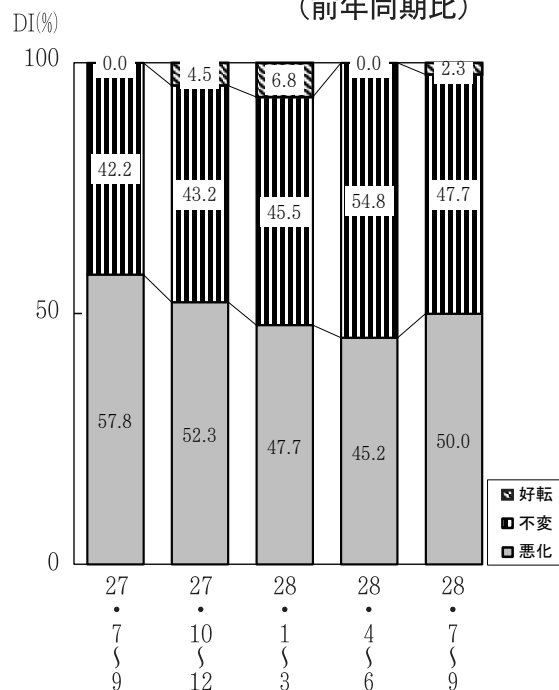


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の2.3%（前期0.0%）と2.3ポイント増加、「悪化」の回答も、今期は全体の50.0%（前期45.2%）で4.8ポイント増加した。

その結果、採算DIは、今期△47.7（前期△45.2）で前期より△2.5ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



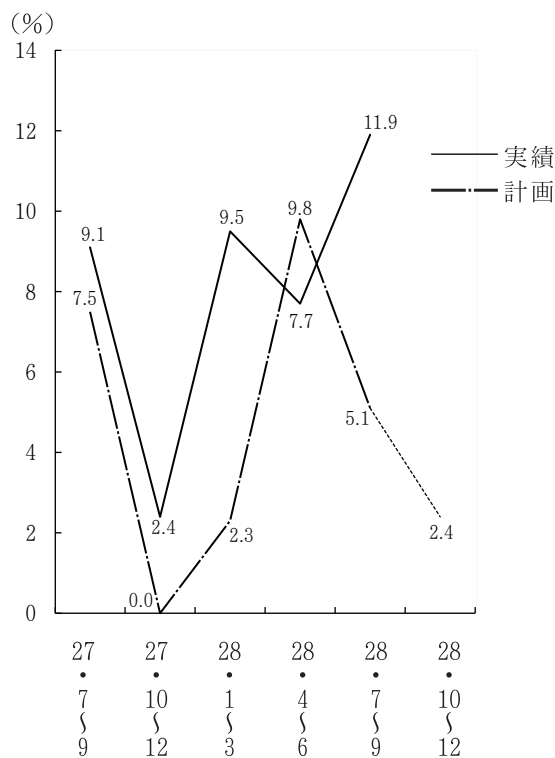
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の11.9%（前期7.7%）で、前期より4.2ポイント増加した。

その設備内容は土地、店舗、販売設備、車両・運搬具、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業は全体の2.4%で、その設備内容は付帯施設となっている。

図3-4 設備投資の状況

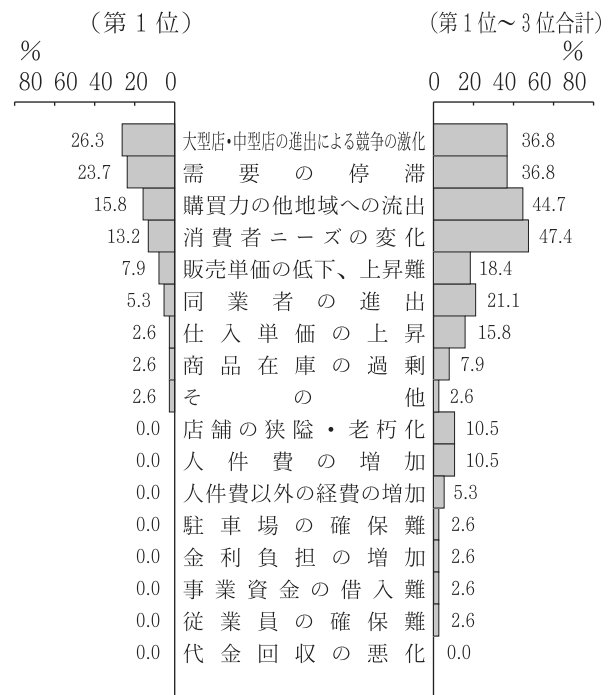


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が26.3%で、次いで「需要の停滞」が23.7%、「購買力の他地域への流出」が15.8%、「消費者ニーズの変化」が13.2%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「消費者ニーズの変化」(47.4%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「購買力の他地域への流出」が44.7%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」、「需要の停滞」が36.8%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



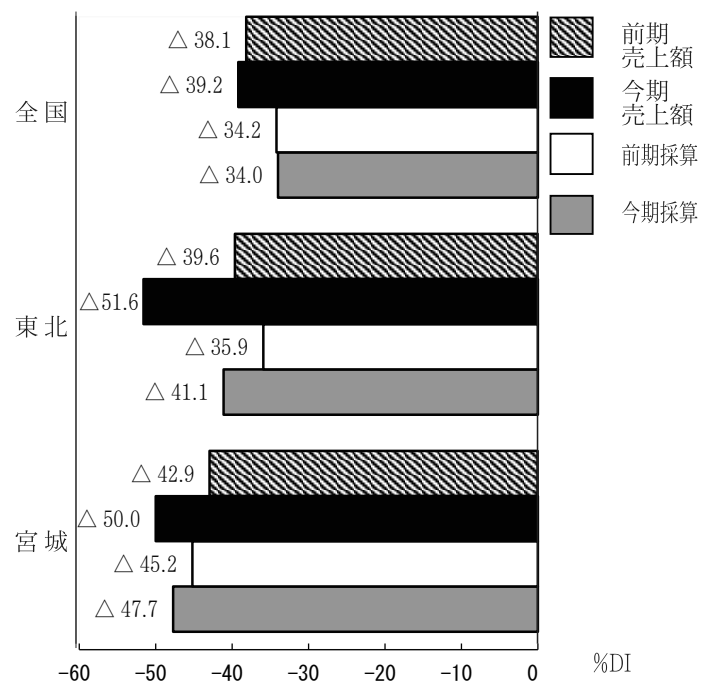
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全区分で悪化した。悪化度は東北、宮城、全国の順であった。

採算DIでは、全国で若干の改善、東北、宮城で悪化となった。悪化度は東北、宮城の順であった。

本県回答事業所から「商品のマンネリ化で新規客がますます遠のいている」(日用雑貨販売)、「店舗及び料飲店の両方で売上が減少している。今後は料飲店に注力して売上増加を図る」(酒類・食品販売業他)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



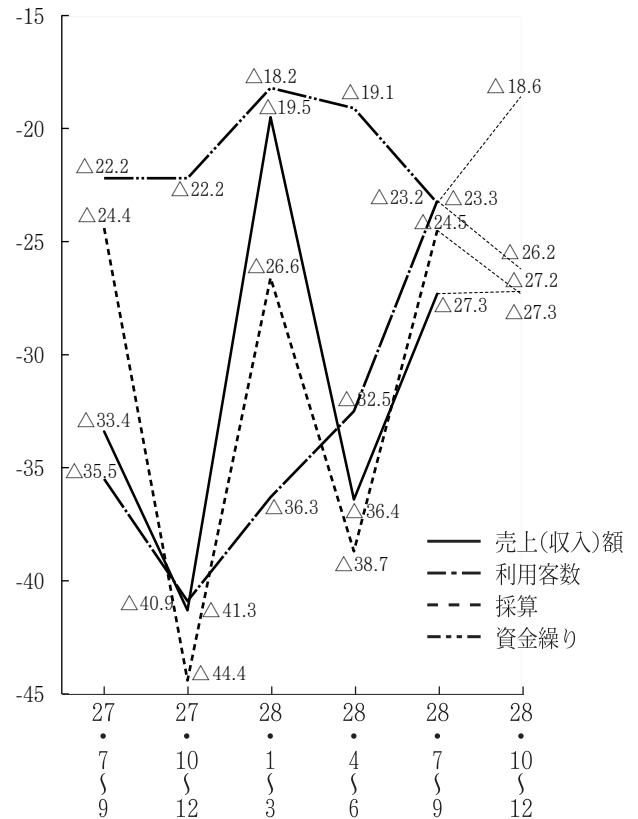
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△27.3（前期△36.4）で9.1ポイント改善、採算D Iも今期△24.5（前期△38.7）で14.2ポイント改善、資金繰りD Iは今期△23.3（前期△19.1）と△4.2ポイント悪化した。

利用客数D Iは今期△23.2（前期△32.5）で9.3ポイント上昇した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



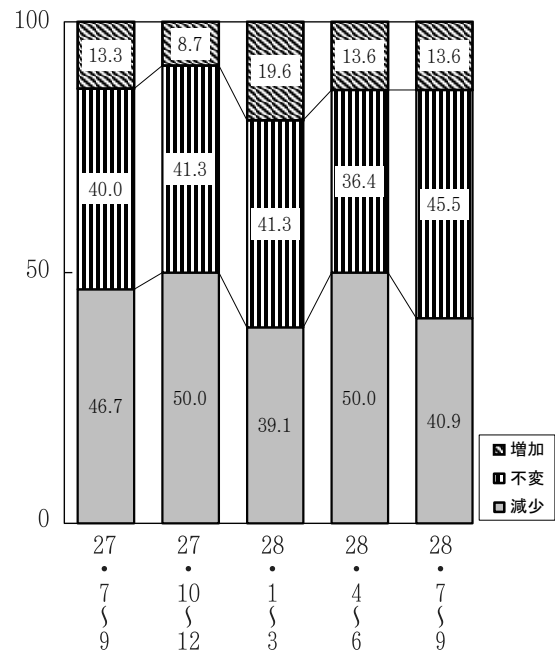
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の13.6%（前期13.6%）で横ばい、「減少」の回答は今期40.9%（前期50.0%）で△9.1ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△27.3（前期△36.4）で前期より9.1ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

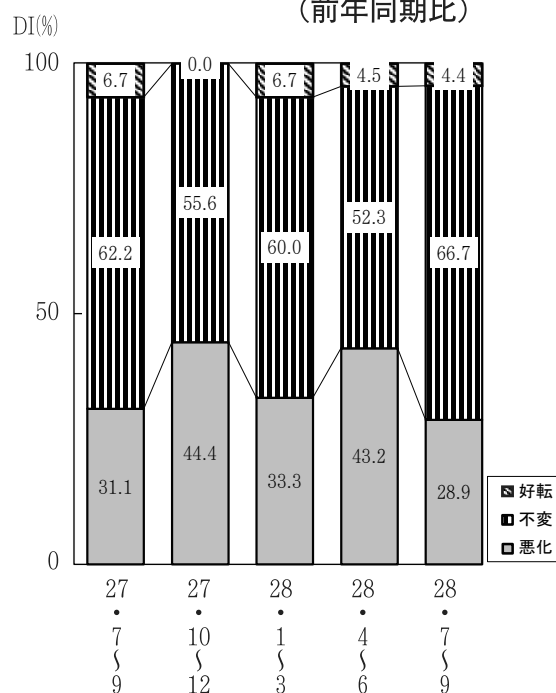


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.4%（前期4.5%）で前期比△0.1ポイント減少、「悪化」と回答した企業は今期28.9%（前期43.2%）と△14.3ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△24.5（前期△38.7）で前期より14.2ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



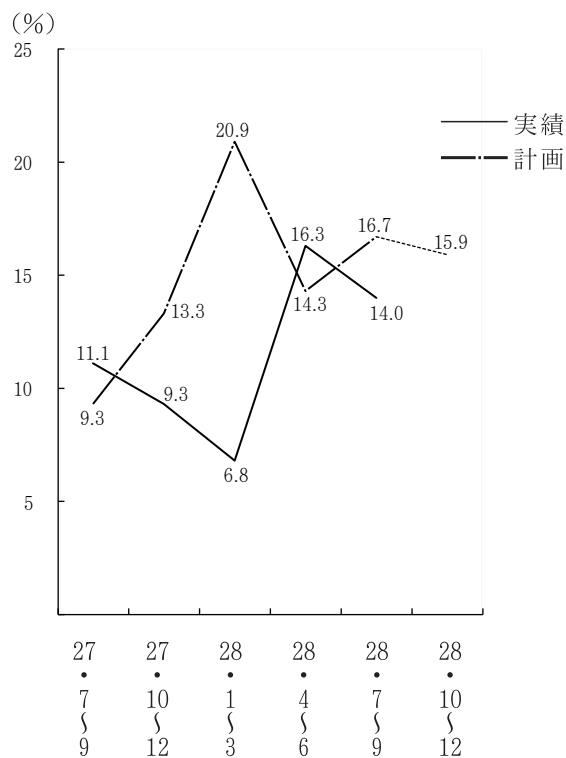
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は、今期は全体の14.0%（前期16.3%）で前期より△2.3ポイント減少した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の15.9%であり、その内容は、建物、サービスとなっている。

図4-4 設備投資の状況

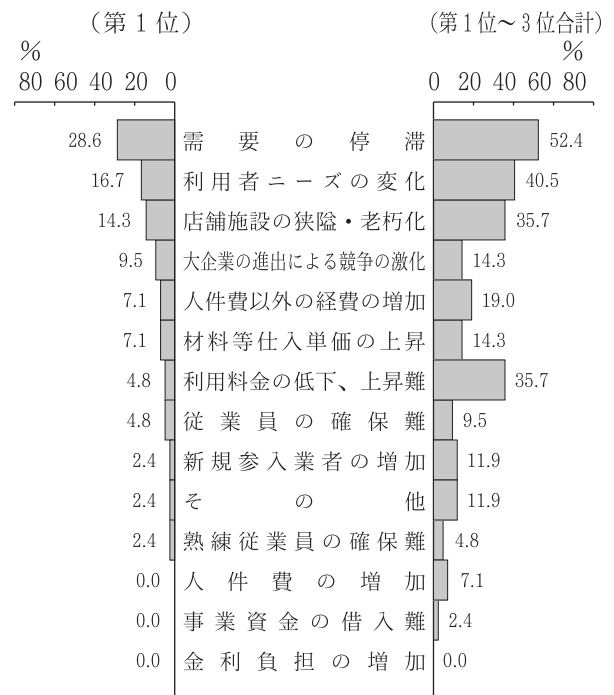


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(28.6%)で、「利用者ニーズの変化」が16.7%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が14.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「需要の停滞」(52.4%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「利用者ニーズの変化」が40.5%、「店舗施設の狭隘・老朽化」、「利用料金の低下、上昇難」が35.7%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上DIは全国で若干の悪化、東北で悪化、宮城で改善となった。

採算DIでは全国で改善、東北で悪化、宮城で改善となった。改善度は宮城、全国の順であった。

本県回答事業所からは「店舗や設備が老朽化しリフォームが必要な時期であるが、経費の増加が避けられない状況」(飲食業)とのコメントや、「売上は増加しているが、従業員の増員に苦勞している」(美容業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

